

その38 氷室

(平成13年6月15日号—第213号)

今回紹介するのは、本市の東部地域を表す氷室です。明治22年(1889)の町村制の施行に先立ち、町村合併が進められ、杉、尊延寺、穂谷の3村が合併して氷室村ができました。この村名は村内に氷室の古跡があって、歴史上有名だったとされたことから名づけられたものです。氷室とは、宮廷で必要な氷を確保するため、冬に池の天然氷を取って、わらなどをかぶせて夏まで貯蔵する施設です。

天長8年(831)8月、朝廷が河内国に増設した三つの氷室のうち、二つが杉、尊延寺に設けられたと考えられています^{*1}。遺構は見つかりませんが、尊延寺の榎谷[むろたに]や杉の南の下の谷がその跡といわれています。

氷室村は、津田村・菅原村と合併して津田町が誕生する昭和15年まで存続しました。現在では、尊延寺北方の住宅地である氷室台の町名や小学校、保育所などにその名を残しています。

氷室地域は、生駒山地の延長部で、穂谷川が南東から北西に貫流しています。市街地に比べ、夏は涼しく、冬は寒さが厳しいため、地酒やそうめんづくりに適しており、江戸時代から地場産業として繁栄した歴史を持っています。



65 そうめんの門干し

^{*1} 『日本後紀』には河内国に3カ所としか記載されていない。氷室の場所として穂谷・杉・芝(尊延寺)などの地名が現れる『氷室郷穂谷氷室遺址権輿紀』は、偽文書であるという説がある。